

令和6年度 全国学力・学習状況調査 栗東市の結果について(概要)

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てる目的で、全国全ての小中学校を対象に実施されています。

令和6年度の調査結果と、今後の改善に向けたポイントについてまとめましたのでお知らせします。

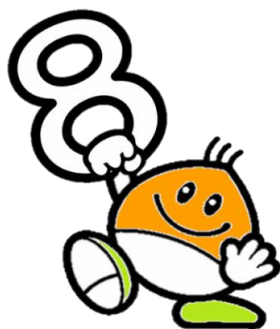
なお、本年度から市全体の各教科の平均正答率を掲載することとしました。これは、子どもたちの学習に関する課題を共有し、具体的な改善・支援策を実施し、その有効性を検証する目安とすることをねらいとしています。

お願い

全国学力・学習状況調査は、学力の一つの指標であり、子どもたちについている力や課題を明らかにし、日々の教育活動に生かすことをねらいとしています。また、ここに示す資料は、栗東市全体の概要であり、個々の児童生徒の状況とは一致しない面もあります。

保護者の皆さんは、お子さんの学習状況を考える上での参考資料としてください。

栗東の子どもたちが、温かな環境のもとで安心して学習ができますよう、これからもご支援いただきますようお願いいたします。

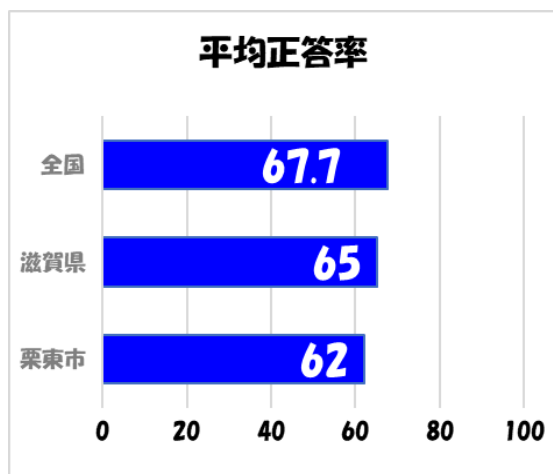


栗東市教育委員会事務局

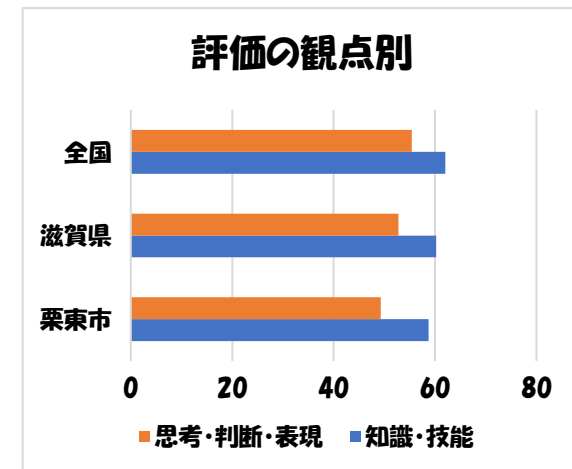
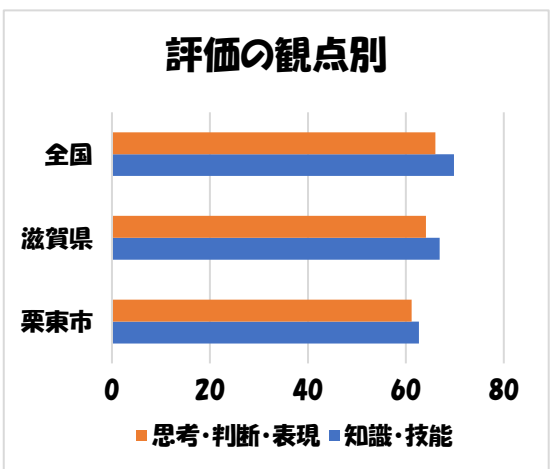
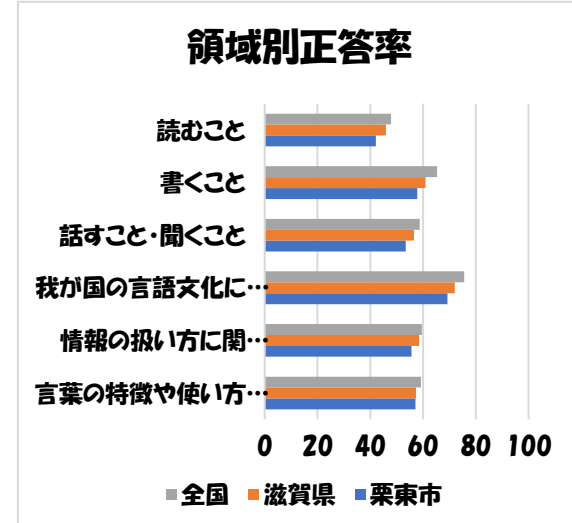
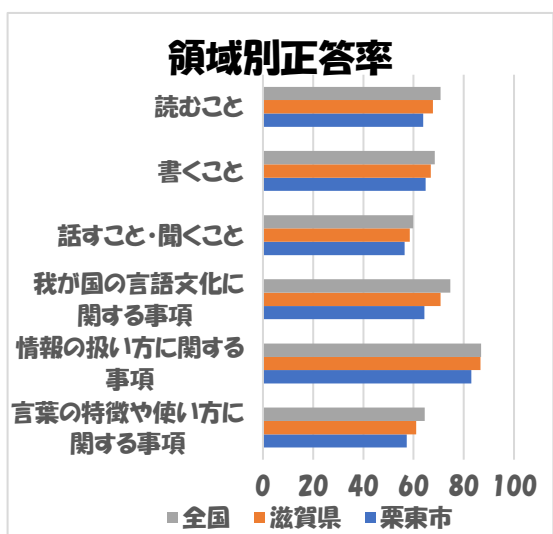
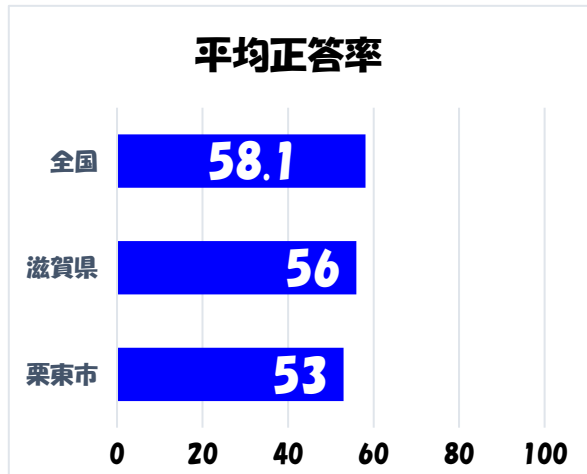
教科に関する調査の全体的な傾向

国語

小学校（全14問）



中学校（全15問）



記述式問題の無解答率

小学校国語

中学校国語

	記述問題①	記述問題②		記述問題①	記述問題②	記述問題③
栗東市	6.5	20.8	栗東市	16.3	13.2	21.7
滋賀県	5.0	15.6	滋賀県	12.5	11.3	19.4
全国	4.9	12.6	全国	9.9	8.4	15.0

(国語の結果概要)

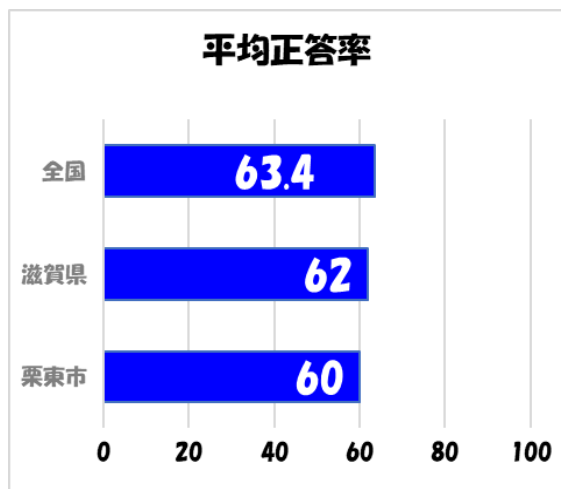
- ・本市の平均正答率は全国平均、滋賀県平均と比較して、小学校・中学校とも下回っています。
- ・領域別正答率についても全国平均、滋賀県平均と比較して、小学校・中学校とも下回っています。
- ・小学校の「知識・技能」では、国県よりも正答率が低く、漢字の定着や言葉のため込みなど基礎的な力を身につけることが大切です。「思考力、判断力、表現力等」についても、「読むこと」に慣れるような授業改善が望まれます。
- ・中学校では、「知識及び技能」の力を身につけられていると考えられます。「思考力・判断力・表現力」の調査結果から問題文を読み取れていない可能性がうかがえるので、問題文を読み取る力が高まる授業改善や取組が必要です。
- ・無解答率※においても国県と比較すると高い割合となっています。調査後半の問題になるとさらに高い割合になるので、時間内に文章を読み切って解答することが難しい弱さが見られました。

※「無解答率」とは、解答用紙に何も書かなかった(空欄の)割合です。

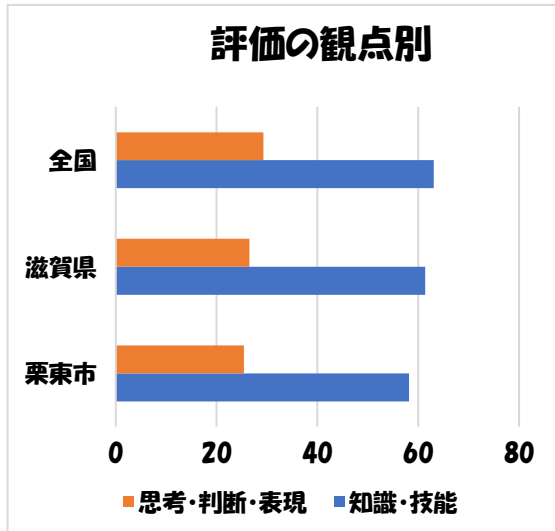
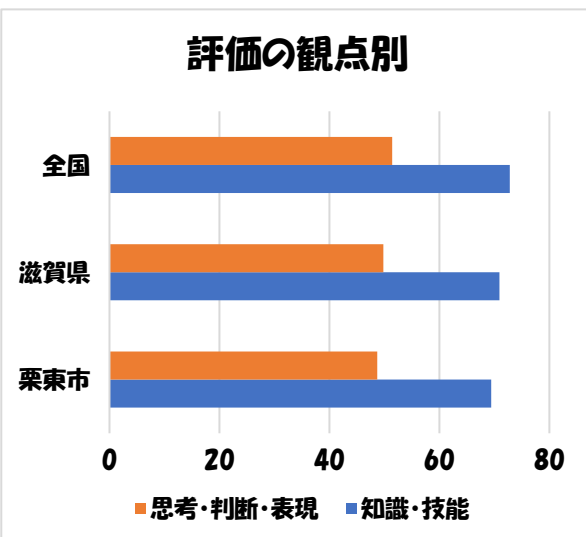
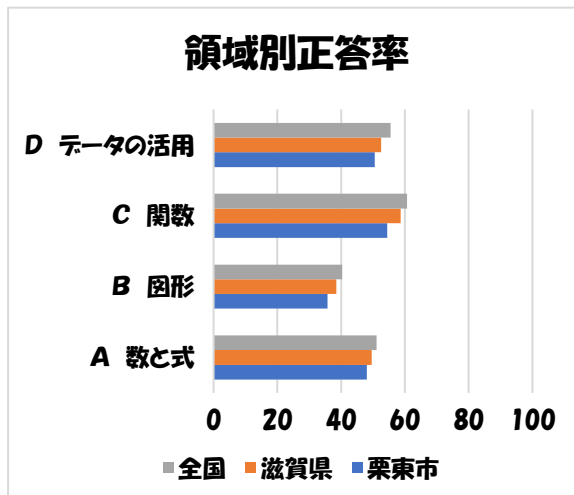
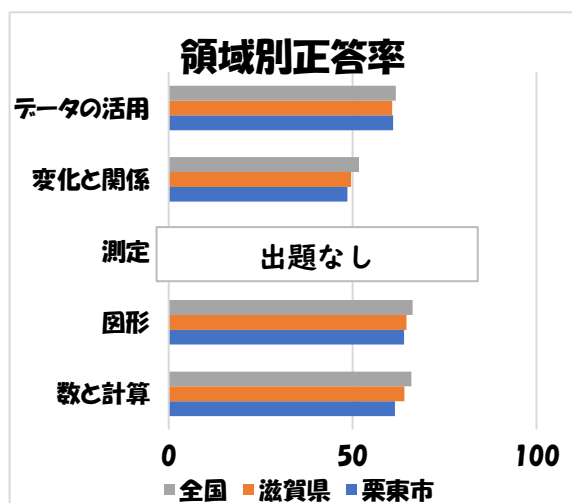
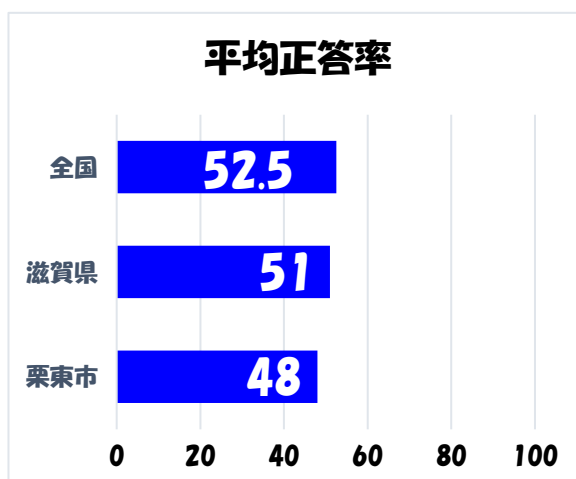
教科に関する調査の全体的な傾向

算数・数学

小学校（全16問）



中学校（全16問）



記述式問題の無解答率

小学校算数

中学校数学

	記述問題①	記述問題②	記述問題③	記述問題④		記述問題①	記述問題②	記述問題③
栗東市	5.4	2.3	3.9	5.1	栗東市	38.7	19.8	45.2
滋賀県	3.3	1.4	2.2	4.3	滋賀県	34.4	19.3	39.1
全国	3.4	1.8	2.4	4.0	全国	29.4	16.4	33.6

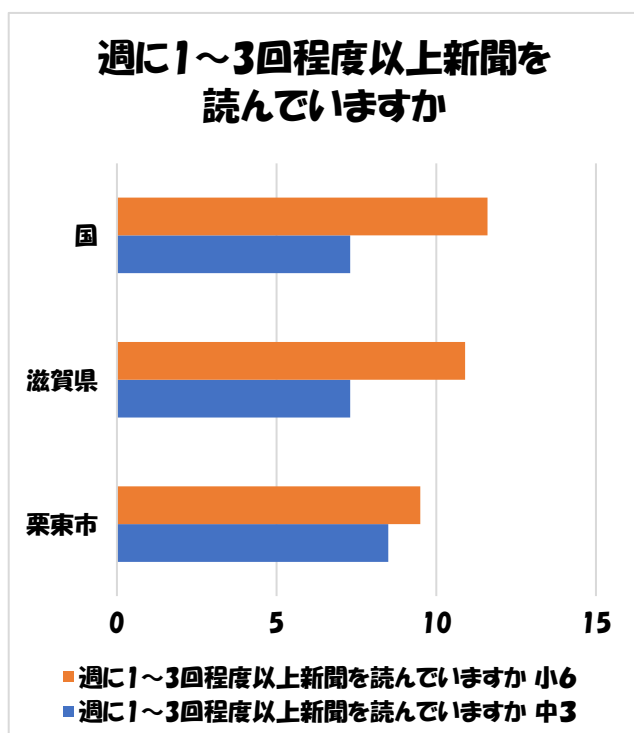
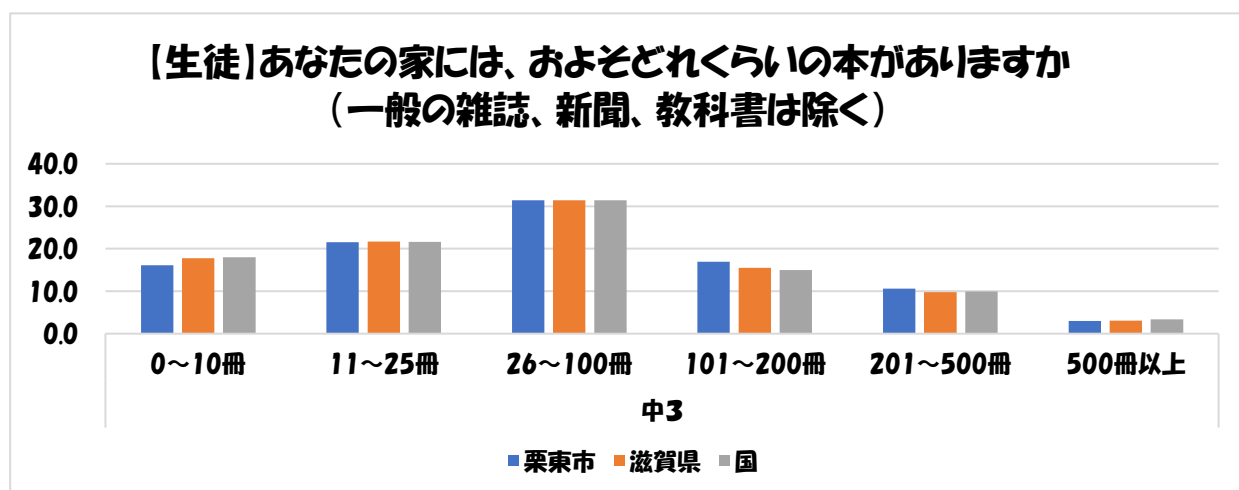
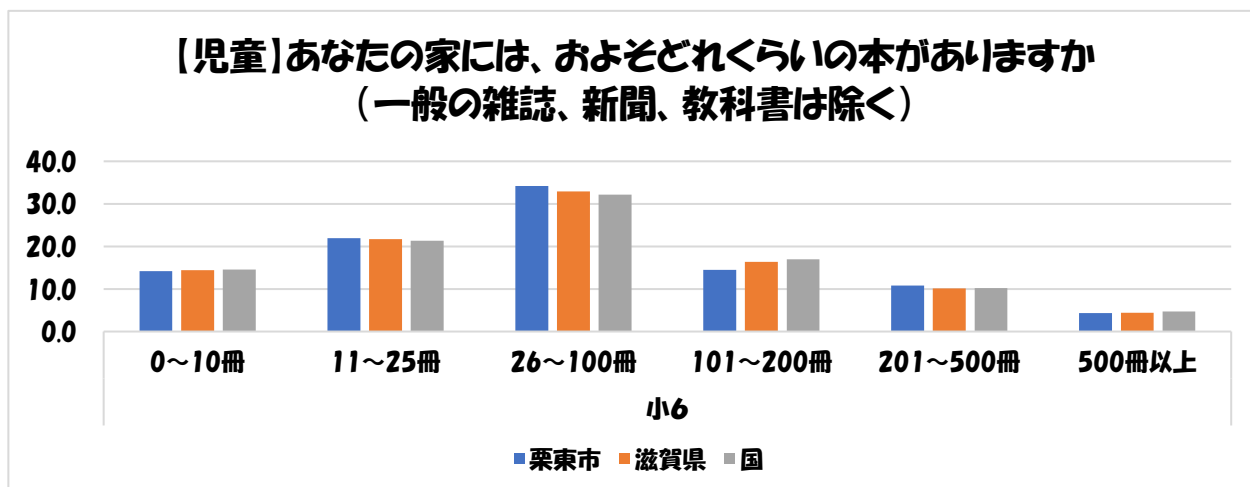
(算数・数学の結果概要)

- ・本市の平均正答率は全国平均、滋賀県平均と比較して、小学校・中学校とも下回っています。
- ・領域別正答率についても全国平均、滋賀県平均と比較して、小学校・中学校とも下回っています。
- ・小学校の「知識・技能」では、正答率50%を切っている問題はありません。「思考力、判断力、表現力等」では、類型外の解答※と無解答の児童の比率が高いことから、児童が自ら考える場面を作り、自力解決の経験を積む授業改善を要することが考えられます。
- ・中学校の「知識・技能」では、正答率50%を下回る問題は、国や県と比較し力がついていると思われます。「思考力、判断力、表現力等」では、無解答と類型外の解答をしている生徒が多くなっており、粘り強く考え抜く経験を重ねる授業改善や成功を実感させる経験が必要です。

※「類型外の解答」とは、以下の「解答類型」には当てはまらない解答のことです。この調査では、膨大な数の児童生徒一人一人の具体的な解答状況を数値として把握することができるよう、児童生徒が書きそうな正答・誤答を予想し、分類・整理した「解答類型」が用意されています。例えば、ア・イ・ウ・エで解答する選択問題の場合、「解答類型」は「ア、イ、ウ、エ」で、それ以外の「オ」「1」「2」「わからん」などは、「類型外の解答」となります。

児童生徒質問紙から見てくる栗東市の子どものがた

1.活字に触れる環境に関する質問について



新聞を読む習慣のある児童生徒が全国的に減りつつあります。また、電子化やネットの環境が整い電子書籍の普及により家庭にある本の冊数を少ないと回答する児童生徒が多かったように見受けられます。学校で新聞や学校図書館の本に触れる機会を増やす工夫をし、文字に触れる機会を増やすことが今後大切になってきています。

2. ICT機器の活用に関する質問について

	小6	中3
	週3回以上	
5年生(中学校1, 2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	40.7	51.0
	小6	中3
5年生(中学校1, 2年生)までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。	とてもそう思う そう思う	
(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	79.3	82.8
(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	88.3	95.4
(3)楽しみながら学習を進めることができる	80.0	86.7
(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	88.7	91.1
(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	70.7	77.9
(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	78.0	78.0
(7)友達と協力しながら学習を進めることができる	84.6	88.4
5年生までに(中学校1, 2年生のときに)受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	61.9	52.1
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	72.4	72.2

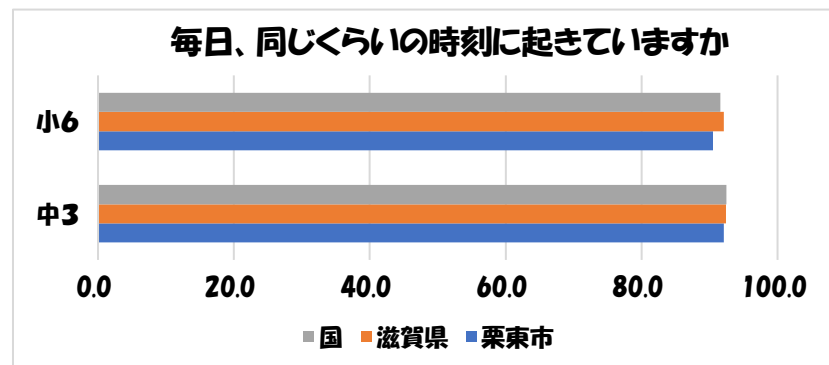
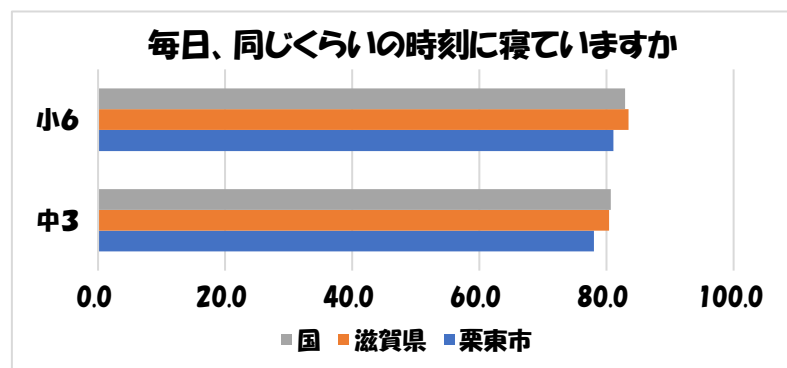
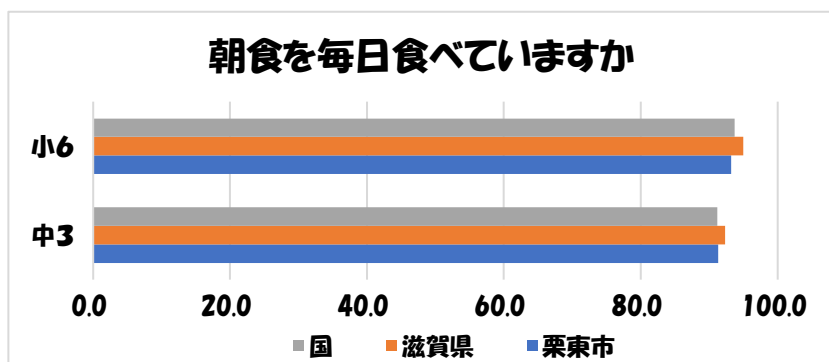
小6、中3ともICT機器を活用した学習において肯定的な回答が多かったです。個別学習やグループ学習、比較、プレゼンなど様々な学習において意欲を高めることにつながる回答となっています。しかしながら、ICT機器を活用した学習の回数が依然として少ない印象となっています。

総合的な学習の時間では調べたことを発表する活動に多くの学校で取り組んでいます。他の教科においても発表の機会を増やし、自分の考えを工夫して伝える経験を増やしていくことが大切です。

今後は、学ぶ意欲がさらに高まるようICT機器を大いに活用し、発達段階に応じて自分の考えや意見を伝える学習、プレゼンを経験する学習を仕組むことが大切となります。

3.家庭での生活や学習のすがた

◇基本的な生活習慣



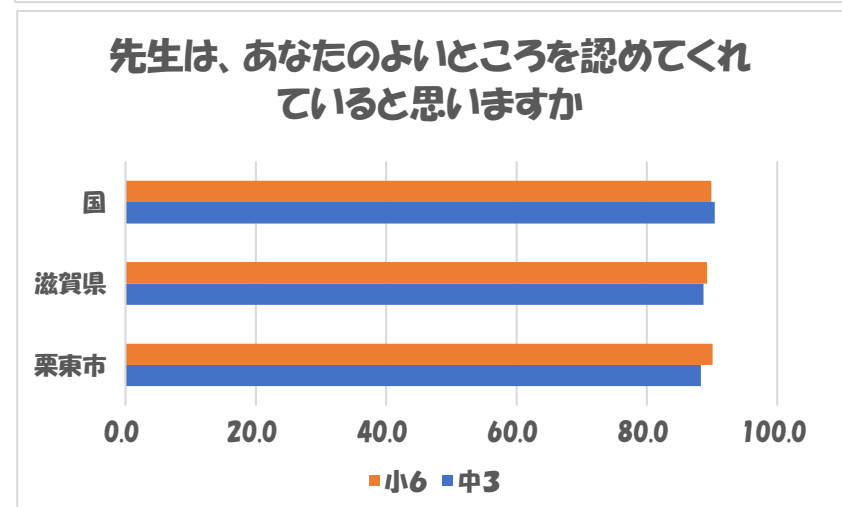
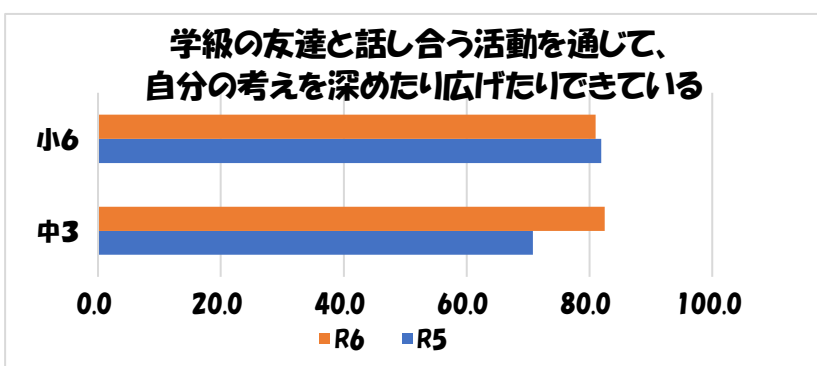
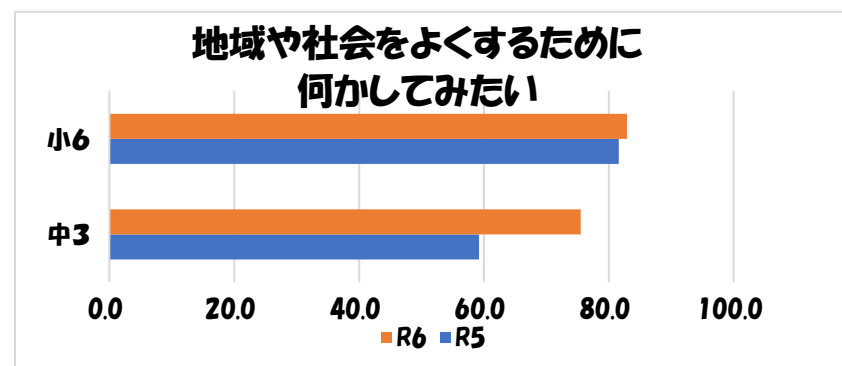
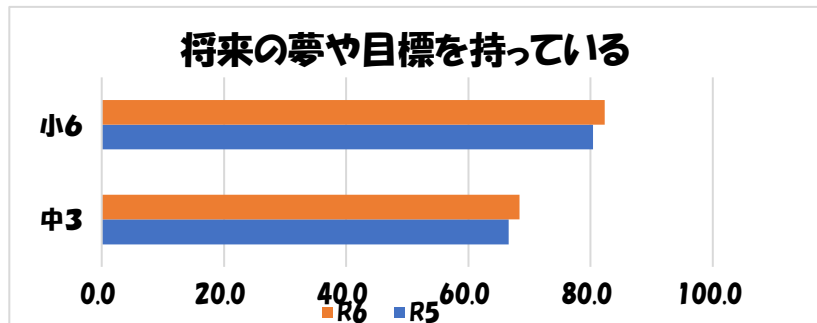
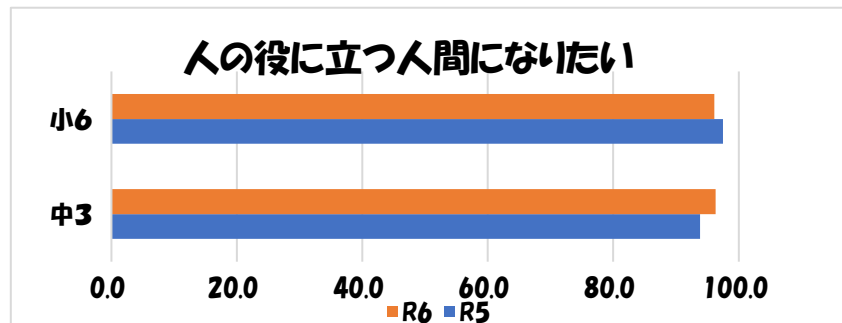
小中学生とも、朝食を食べることと、決まった時刻に起きることについて、基本的な生活習慣が身についていると言えます。生活習慣の形成には家庭の役割が大きく、家庭のルール作りがしっかりされていることが分かります。

4.非認知能力にかかわること

栗東市では「栗東子育て教育Nextプロジェクト」として、非認知能力を育むことに取り組み、令和4年度より児童生徒質問紙との関連に注目しています。栗東市の子どもたちにつけたい非認知能力とは、「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」の3つです。

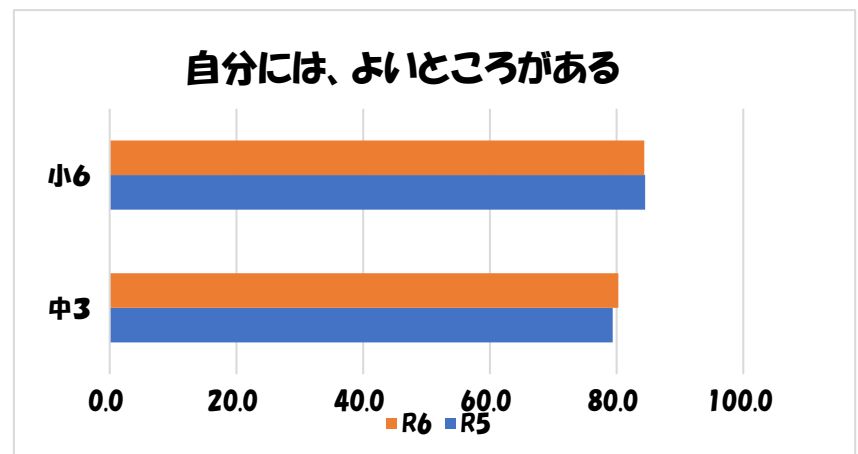
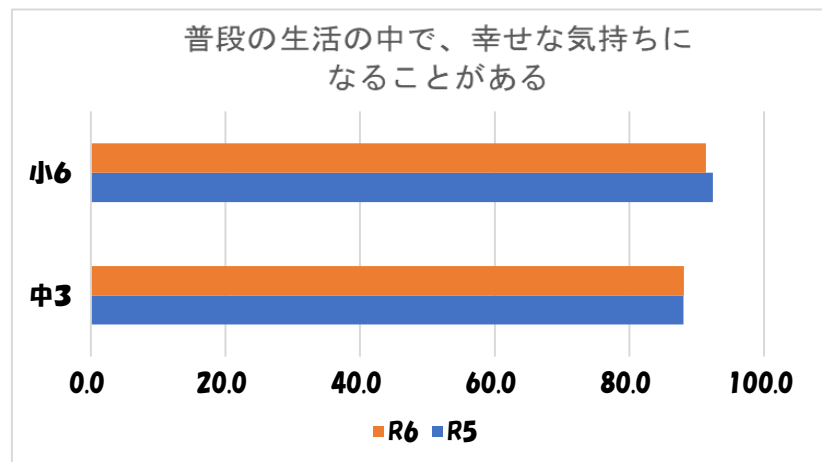
非認知能力は、テストなどで数値化できないものです。非認知能力と関連する質問から小中学生がもつ非認知能力の一端をうかがい知ることができます。

◇自分を高める力…自分をさらに良い状態にするために必要な力

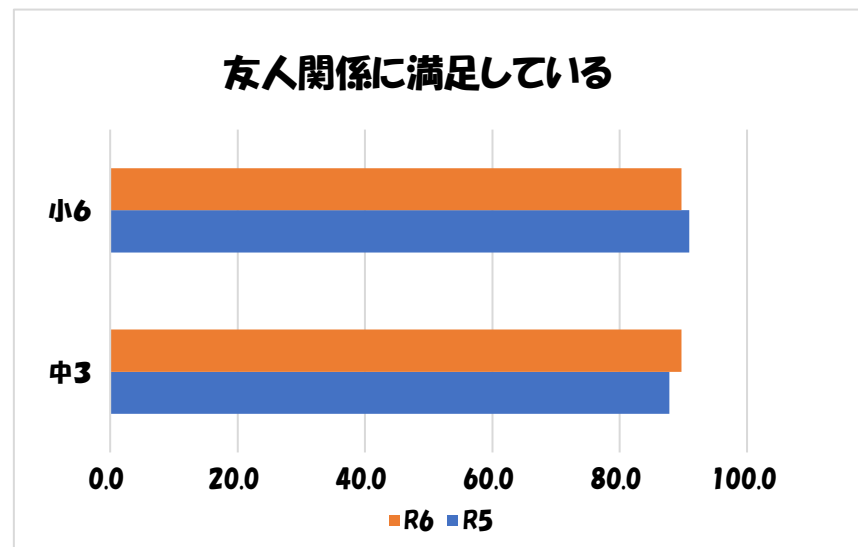
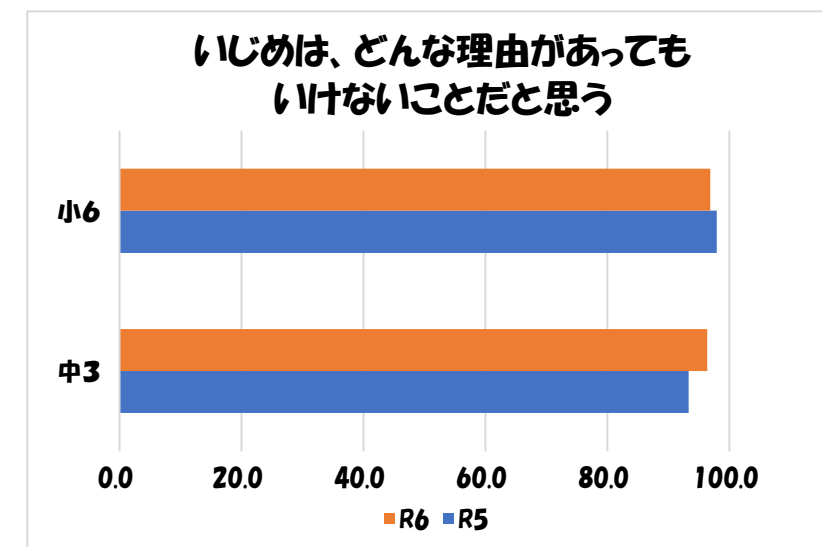
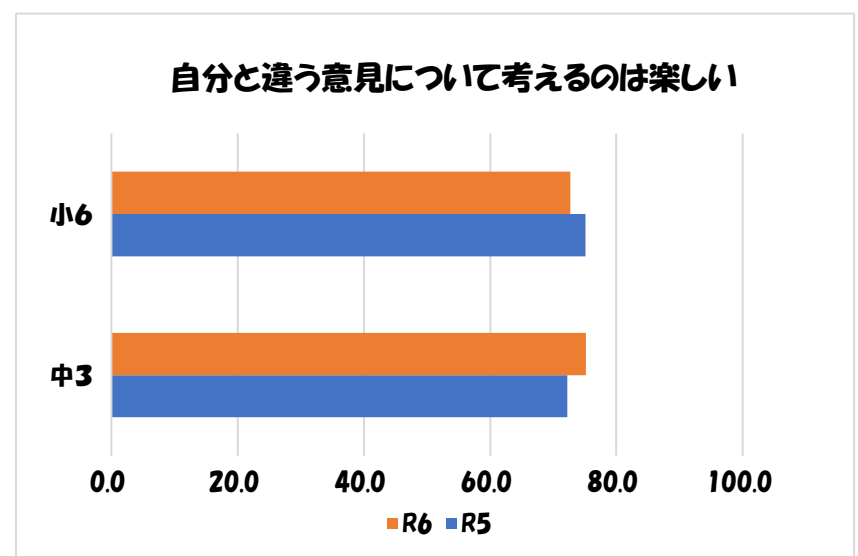
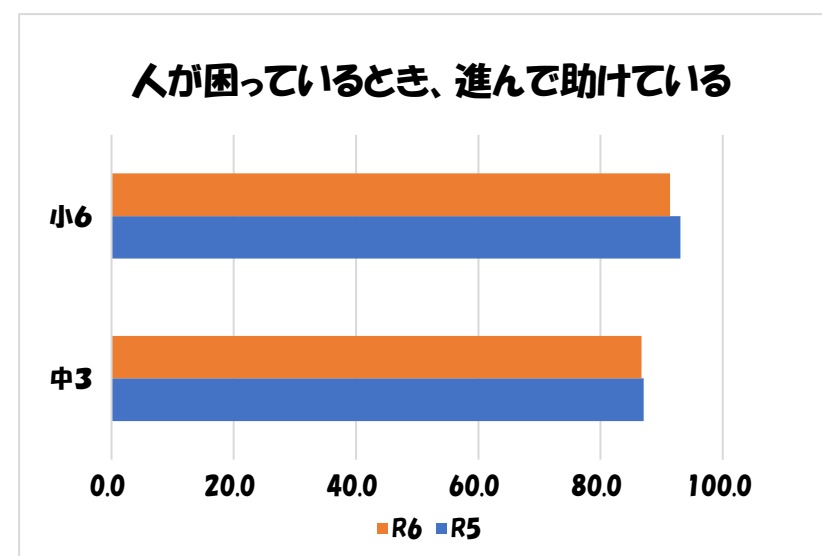


90%以上の小中学生が「人の役に立つ人間になりたい」と考え、高い水準を維持しています。こうした思いが持てるよう、学校では子どもたちのよいところをどんどん認め、家庭、地域においても積極的に子どもたちのよさを認める声をかけていきましょう。

◇自分と向き合う力…自分の気持ちや状態を落ち着かせるために必要な力

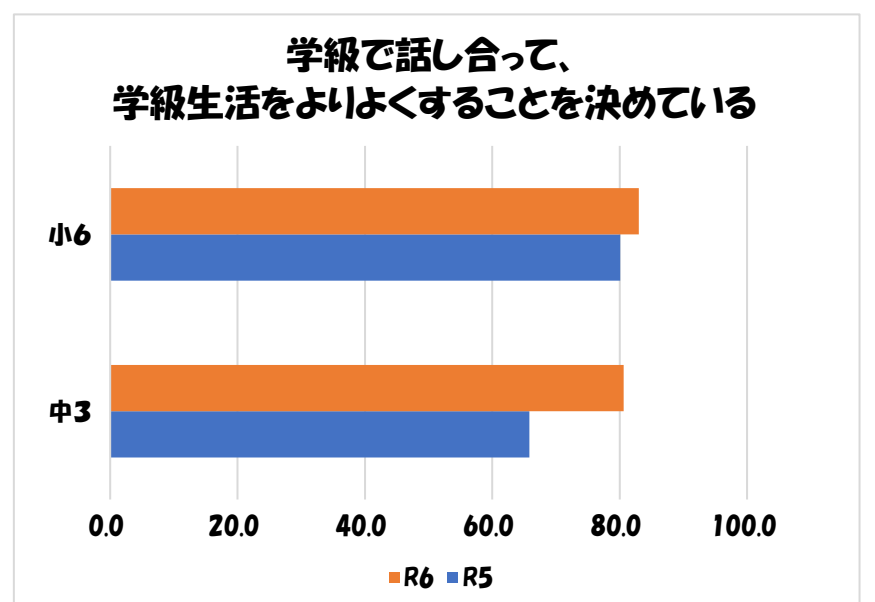


◇他者とつながる力…他者と協働するために必要な力



いじめはいけないと思うことや困っている人を進んで助けていることについて意識の高い傾向を保っています。

小学校と中学校が連携した取組みにより、多くの項目について中3の伸びにつながり、「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の成果が表れ始めていると言えます。「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」の3つの力を伸ばす取組みを今後も大切にしていきます。



栗東市の学力向上策

今回の全国学力・学習状況調査(栗東市の結果)で明らかとなった当市の学力課題の解決に向けて、以下に取り組みます。

読む・文章に触れる環境づくりの推進

- 校内で一斉に読書する時間を設けて継続するなど、各校の読書活動を推進します。
- 国語科の教科書の説明文や物語文以外に、新聞記事を取り入れたり、学習活動の並行読書に取り組んだりして、文章を最後まで読み切り、文章を読むことに慣れる経験を豊かにする活動を推進します。
- 各校図書館の充実に向け、学校司書を効果的に活用し、学習に必要な本の準備や助言を活かして「読む力」の向上を図ります。
- 市内小中学校の学校図書館リニューアルが完了し、分類ごとに配架された活用しやすい環境が整いました。今後もさらに本が大好きな子どもたちを育てるために、各校の蔵書冊数を増やし、利用したくなる学校図書館づくりを行います。

ICT機器の活用・教科担任制等の推進による授業改善

- 大型提示装置やICTの機器のさらなる効果的な活用、加えて今年度導入した「授業支援システム」を活用した授業づくりをサポートします。
- 「授業支援システム」を活用して、互いの考えを共有したり、まとめたり、表現したりする学習活動を通し、自分の考えを伝える経験を増やす授業改善に取り組めます。
- 小学校では、教科担任制や学年担任制を積極的に取り入れ、専門的な力を発揮するとともに、準備する教科の数を減らすことで生み出される時間を活用して、ICT機器やツールのスキル・アップをサポートします。
- 「授業支援システム」の導入により一層進む学習用タブレットの日常的な使用により、デジタルドリル「ドリルパーク」の使用頻度をさらに高め、基礎学力の定着に取り組めます。

「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の継続

- 「栗東子育て教育Nextプロジェクト」により、各校区で子どもたちの課題を明確にして、すべての大人の連携と接続で、子どもたちの生活習慣の獲得を進めます。
- 「栗東子育て教育Nextプロジェクト」推進の中で、園での学びや体験が、小中学校に引き継がれ、生かされる保幼小中の連携と接続をより一層の強化します。

「各校の主体性・独自性」を重視した取組の展開

- 学力向上に有効な方略「学力向上セレクト・パッケージ」を教育委員会が提示します。
- 各校が児童生徒の実態を分析し、学力向上の方略を考え、希望する「学力向上セレクト・パッケージ」メニューに応募します。
- プロポーザル審査の過程を通して、各校の主体性・独自性を重視した学力向上策の構築を支援します。